

キャン ドウ

CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2016年12月[第77号]



- | | | |
|----------|--------------------------------|------------|
| 活動の方向性 | マラウイ共和国での事業形成の展開 | 永岡 宏昌 |
| ナイロビ便り | 広がるナイロビ—ケニア共和国ナイロビ首都圏 | 橋場 美奈 |
| 活動報告 | マシंगा県における地域保健ユニット(CHU)形成の進捗状況 | |
| 報告 | ミグワニ県における幼稚園での活動終了後、2015年に調査 | 竹下 加奈子 |
| ひと | インターンを終えて | 西村 香保／釜坂 聖 |
| フォト・レポート | マラウイの調査で会った人たち、そして青空教室 | |
| 事務局から | | |

写真は、マラウイ共和国サンジェ町で。植民地時代に川沿いの港からマラウイ湖畔まで引かれた鉄道の跡。

マラウイ共和国での事業形成の展開

代表理事 永岡 宏昌

昨年12月の会報第73号で報告した、マラウイ共和国での事業形成の展開について報告します。その後、南部のブランタイヤ市を拠点に社会開発事業に取り組む非営利団体から、当会の活動趣旨と地域との関わり方への賛同を得て、助言と後方支援を受けられることになりました。

ブランタイヤ市を当面の拠点として、7月上旬と11月初旬から12月初旬の訪問で、同市から東へ100キロほどのパロンベ県に通いました。全国27県のうち貧困人口比率が9番目に高い県で、面積1,633平方キロメートル(香川県の9割弱)、人口は約38万人。行政単位は6つの区から構成され、その下にグループ村、そして村に区分されています。各長として伝統首長、グループ村長、村長が存在し、世襲的に引き継がれ、住民に大きな影響力を及ぼしている、とのことでした。

県内に公立小学校は88校あり、在席生徒数は合計136,443人、平均1,550人です。1年生が31,978人に対して、最終学年の8年生は6,967人で、入学した子どものうち卒業できるのは数人にひとりの割合です。このうち19校を訪問し、施設を観察して校長や保護者に話を聞きました。低学年の恒久教室は、大勢の子どもたちがお互いに接して座っ

ていて、足の踏み場もない状態で授業を受けています。直射日光は遮れても雨には耐えられない仮設教室や、青空教室も多くあります。子どもにとって、継続して授業を受けることに耐えられない環境のようにみえます。教室は不足していますが、何らかの援助に呼応する形で教室建設に参加することが定着していて、住民が自発的・自律的に恒久教室を建設することは思いつかないようです。

中退の理由として、貧困があげられました。着ていく服がないこと、ノートを買えないこと、隣国モザンビークへの出稼ぎなどが共通して聞かれました。女子の妊娠による中退もあり、2000人規模のある小学校で、妊娠例が2014年は46件、という数字に驚きました。翌年には5件に減少したそうですが、「自発的に」医療機関で避妊用ピルや注射剤を受けられるようになったことがあげられました。これは、HIV感染の予防の点でも問題です(マラウイのHIV陽性率は10.8%-2012年)。

今回の調査で、小学校を卒業する意義が、地域で見いだせていないようにみえました。教室のニーズとともに、住民が子どもの教育と健康を保障するために、さまざまな知識や視点を広げていく意義について、地域の関係者と議論を深めていこうと考えています。

ナイロビ便り

広がるナイロビ—ケニア共和国ナイロビ首都圏

調整員 橋場 美奈

私が最初にナイロビに来たのは、17年前。その頃のナイロビは少し郊外へ出れば、サブアンナが広がる田舎であった。ここ数年で「首都ナイロビ」は大きく変わった。

中心市街はそれほど変わらない。数十年前にナイロビに来た人でも、今も昔と変わらない町の姿を見ることができる。スラムがあることも同じだ。変わったのは、ナイロビの郊外である。

CanDoの事業地、マシンガ県に向かうとき、ナイロビから北へ走るティカ道路は片側4車線の高速道路だ。このような道路だけでなく、電力・鉄道も含めたインフラの整備が拡大した。2010年の新憲法成立、それによる地方分権化、カウンティ(地方)制度の誕生がこれを後押ししている。

思い返してみると、10年前は、ナイロビ内部で新しい住居や商業施設、新しい経済地区が開発されていた。その空前の建設ブームは続き、外へと広がっているのが、ここ5年ほどの動きである。

ティカ道路沿いは、高層アパートが乱立する地域になった。まるで木々が繁殖するように、あっという間に増えた。そして、人々は郊外に住み、ナイロビ市街へ通う。ケニアでは、ナイロビの北のキアンブ地方、東のマチ

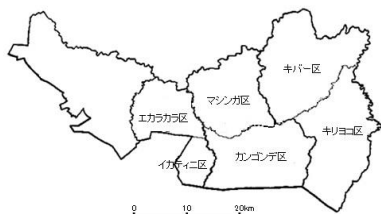
ャコス、西のカジアドを含めて、「ナイロビ首都圏」としている。渋滞がひどいナイロビ市街を避けて、これらの地方の市街をつなぐバイパスが開通し、現在建設中の道路・鉄道もある。日本で、東京都の周辺県を含めて、首都圏とされるのと少し似ているように思う。

ナイロビの外で、教育や医療はどうなのか。外国人も利用する高級私立病院の支店はナイロビの外でも各町に存在する。教育についても、ナイロビにある有名私立校の分校が郊外にも作られ始めている。人の動きに合わせて、しっかり病院も学校もビジネス範囲を広げている。

ナイロビには誰がいるのか。極端に言えば、スラムに住む低所得者、仮住まいの出稼ぎ者、学生、政府宿舎に住む公務員。それから外国人駐在者、政治家を含めた超高所得者ではないかと思う。中所得者の居住地域もあるが、傾向としては、この層は家賃の安い郊外へと移っていくように思う。

ケニアの「居住者」として、私自身も、「ナイロビの高すぎる家賃を払っていけない」という理由でマチャコス地方へ2年前に引っ越した。高く狭いナイロビの居住環境から、郊外へと移ってきたのだが、どうやら意識せずに、ケニア人と同じ波に乗っていたようだ。

活動報告 マシंगा県における地域保健ユニット(CHU)形成の進捗状況



1. ムクス CHU—マシंगा区

- ・地域リーダーへの保健とリーダーシップ研修: 2014年
- ・地域保健ボランティア(CHV)研修: 2014年
- ・CHU活性化のために、月例報告会、活動日を参与観察: 2015年～
- ・エイズ研修: 2015年
- ・CHVによるエイズ学習会を支援: 2015年～

2. イーアニ CHU—キバー区

- ・リーダー研修: 2014年
- ・CHV研修: 2015年
- ・月例報告会、活動日を参与観察: 2015年～
- ・エイズ研修: 2015年
- ・エイズ学習会を支援: 2015年～

3. エカラカラ CHU—エカラカラ区

- ・リーダー研修: 2015年
- ・CHV研修: 2015年

- ・月例報告会、活動日を参与観察: 2015年～
- ・エイズ研修: 2016年
- ・エイズ学習会を支援: 2016年～

4. ミアングニ CHU—キリヨコ区

- ・リーダー研修: 2015年
- ・CHV研修: 2015年～16年
- ・月例報告会、活動日を参与観察: 2016年～
- ・エイズ研修: 2016年
- ・エイズ学習会を支援: 2016年～

5. ズキニ・イトウドウイムニ CHU—エカラカラ区・イカティニ区

- ・リーダー研修: 2016年
- ・CHV研修: 2016年
- ・月例報告会、活動日を参与観察: 2016年～

6. カトゥリエ CHU—マシंगा区

- ・リーダー研修: 2016年
- ・CHV研修: 2016年
- ・月例報告会、活動日を参与観察: 2016年～

7. ミクユニ CHU—カンゴンデ区

- ・リーダー研修: 2016年

報告 ミグワニ県における幼稚園での活動終了後、2015年に調査

元インターン 竹下 加奈子

私は、2011年の9月から、大学を休学して、CanDoのインターンとして幼稚園における保健事業に携わりました。

ケニアでは、幼稚園は小学校に進学するための勉強をする場としてとらえられていて、子どもの健康を守ることにに対する保護者や先生の関心は低い傾向にあります。CanDoの保健事業では、幼稚園教師に対して子どもの健康に関する研修を行ないます。教師が子どもに手洗いの指導をしたり、幼稚園の衛生環境を整えたりすることによって子どもの健康を守り、勉強に集中できる環境を整えています。

私は卒業後、公衆衛生を専攻するために大学院に進みました。そして、幼稚園の教師を対象とした保健研修が、子どもの衛生行動および健康状態にどのような効果をもたらしているかを明らかにするため、2015年に調査を行ないました。対象は、保健研修を実施済みのキツイ地方ミグワニ県の小学校に併設されている幼稚園8園と、調査当時、CanDoが活動を予定していた、マチャコス地方マシंगा県の幼稚園7園です。

教師への聞き取りと幼稚園での観察調査によって、児童が手洗いを適切なタイミングで(食前、食後、トイレを使用した後、外で遊んだ後)行なっているか、また病気による欠

席の有無などを比較しました。

その結果、保健研修を実施済みのミグワニ県の幼稚園に属する子どものほうが、手洗い行動を適切なタイミングで行っていることが明らかになりました。主な理由として、保健研修を受けたミグワニ県の先生は子どもの健康に対する知識が高く、手洗い用に水を溜める容器を用意して、適切なタイミングで手洗い指導をしていることが挙げられます。

CanDoは、幼稚園の教師だけでなく、関係する小学校の校長や保護者に対しても研修を行なっています。ミグワニ県の幼稚園で、手洗い用の容器をはじめ、衛生環境が整えられているところを見ると、教師が校長や保護者と協力して、子どもたちの健康を守ろうとしていることが分かります。ケニアの人々、地域社会がもつコミュニティの力、「豊かさ」を目の当たりに見たように思いました。この調査の結果以上に、そうした意味で、CanDoの取り組みは価値があるものと確認できたことは、成果だと思えます。

最後にこの場をお借りして、研究にご協力いただいた永岡さんをはじめ、日本人・ケニア人スタッフ、インターンの皆さん、調査で出会ったすべての方々々に心より感謝申し上げます。

ひと インターンを終えて

ケニア人と日本人—問題意識の共有が一番難しい

釜坂 聖

2016年3月から7か月間、インターンとして、主に地域保健ボランティア(CHV)育成でのCHV候補の選考と研修、地域保健ユニット(CHU)の活性化に携わった。

その中で私は自分と違うバックグラウンドを持った人と一緒に働くことの難しさを痛感させられた。CHVの選考や研修の実施には手順があり、過去のスタッフやインターンが作成した資料を見ればわかる。しかし、その通りにやっても、簡単には行かず毎日毎日、予想外のトラブルの連続であった。そんなとき、ケニア人スタッフと話し合い解決策を一緒に考えることが必要となる。ケニアのことは日本人にはわからない。しかし、話し合い以前に問題意識の共有が一番難しい。日本人が問題だと感じていることがケニア人にとっては普通であること、またその逆も常であった。その中でも自分の問題意識をケニア人スタッフに必死に説明し、理解を得て、問題解決につなげられたこともあった。必死に伝えれば、伝わる。この経験は将来、世界に出て働くとき、私の助けになるだろう。

インターンの1週間 —9月26日(月)~30日(金)の週報から—

◆施設拡充・環境活動担当 A

9月26日(月)

・ケニア人スタッフ3人と内部会議

9月27日(火)

・MKY 小学校で保護者会議

9月28日(水)

・MKM 小学校で教室の床の仕上げ

9月29日(木)

・KW 小学校を訪問し、進捗状況を確認

9月30日(金)

・マトゥー事務所で、ケニア人・日本人スタッフ、インターンの週例会議

*10月1日(土)

・ナイロビ事務所で週例会議(日本人のみ)

◆保健担当 B

9月26日(月)

・公衆衛生官訪問(事業責任者永岡に同行)

9月27日(火)

・K 準区の助役を訪問(永岡に同行)

9月28日(水)

・CHV 候補選出のため、K 準区 KT 村を訪問

9月29日(木)

・マトゥー事務所で事務作業

9月30日(金)

・マトゥー事務所で週例会議

*10月1日(土)

・ナイロビ事務所の週例会議

お詫び 都合により記事の内容を差し替えました。

フォト・レポート

マラウイの調査で会ったひとたち、そして青空教室



7月3日、パロンベ県。キマメ(pigeon pea)を収穫し、枝から鞘を取り外す作業中。



11月17日、サンジェ県の市場。「身体を洗うモノ」として、ヘチマを売っていた男性。



7月6日、パロンベ県。給水システムを作ったけれども失敗した水場跡と思われる。



11月25日、パロンベ県の小学校。



11月17日、サンジェ県サンジェ町。家族で芋の収穫を終えて、村への帰路のようです。



11月25日、パロンベ県の小学校。左奥と右手の木の下で、青空教室。

事務局から

報告 ~2016年12月14日

◇組織

○10月、第3回 CanDo 預託金の募集を開始しました(預託期間は3年間)。

◇国内活動

○10月1日~2日、お台場センタープロムナードで開催された、グローバルフェスタ JAPAN 2016 に出展。パネル等の展示とケニアの物品販売を行ない、アフリカのボードゲーム「バオ」のコーナーを設けました。2日、子ども向けブース見学ツアーを受け入れました。

○10月14日~15日、アフリカ教育研究フォーラムに代表理事 永岡宏昌が参加。マラウイ共和国での大人たちが子どもの健康と教育を保障する社会の促進に協力する可能性調査を発表。

○10月28日、JANIC(国際協力センター)ユースのブログで、事務局員(事業担当)今村純子のインタビュー記事が掲載されました。

○10月28日、11月4日、永岡が東洋英和女学院大学大学院でゲスト講義。

◇人の動き

○9月21日、甲斐史織(かい しおり)をインターンとしてケニアに派遣。

○10月12日、永岡がケニア出張から帰国。

○10月25日、インターン 釜坂聖が研修期間(約1か月半延長)を終了してケニアから帰国。

○11月6日、調整員 橋場美奈がケニアに出发。

○11月9日~12月9日、永岡と今村がマラウイに出張。

○12月2日、インターン 吉田菜摘が研修期間を終了してケニアから帰国。

○12月7日、インターン 福井修が研修期間を終了してケニアから帰国。

○12月10日、元インターン 宇野由起信をケニアに再派遣。

■次号は、2017年3月に発行の予定です。

CanDo アフリカ [第77号]

2016年12月21日発行

発行人: 永岡宏昌

編集人: 佐久間典子

発行: 特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)
〒110-0001 東京都台東区谷中2-9-14 第2森川ビル B号室

電話/FAX: 03-3822-1041

電子メール: tokyo@cando.or.jp

ウェブサイト: <http://www.cando.or.jp/>

郵便振替: 口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会